ル也、名號テミカマ木ト云、御竈木也、閏月アル年ハ墨ヲ十三引ク也、江戸モ御竈木ハ武家ノミ、右ノ削リカケ、及ビ御竈木、京坂モ官家武家ニハ行之歟、民家ニ不設之ナリ、

〔大江俊矩公私雑日記〕寛政十年正月十四日己卯、今日飾をろし也、如例、

〔改正月令博物筌正月〕注連飾　飾縄、かざりわら、ふりくめなはといふ、土佐日記に出たり　注連なわをひくは、不淨をはらふ心なり、神社には常にふめなわひくゆへ、ふめとばかりは季にならす、かざる心を用ゆれば、正月の季なり、

〔秇苑日渉六〕民間歳節上　元日〇正月　至十四日、懸藁索於戸上、索以稲秸爲之、毎寸出其端尺餘、下垂如條、插讓葉及穂長草于其間、謂之司命索、詳當否、讓葉蓋楠之類、益軒先生以爲交讓木、未穂長草或以爲格注草、相似差異、　晉書禮志曰、歳旦設葦茭桃梗、磔雞於宮及百寺之門、以禳惡氣、　荊楚歳時記曰、正月帖畫鷄戸上、懸葦索於其上、插桃符其傍、百鬼畏之、括地圖曰、桃都山有大桃樹、盤屈三千里、上有金雞、日照則鳴、下有二神、一名鬱、一名壘、幷執葦索以伺不祥之鬼、得則殺之、應劭風俗通曰、黄帝書稱、上古之時、兄弟二人曰荼與鬱、住度朔山上桃樹下、簡百鬼、鬼妄撝人、援以葦索、執以食虎、於是縣官以臘除夕飾桃人、垂葦索、虎畫於門、效前事也、潛確類書曰、按通典、夏后氏金行、初作葦茭、段人水德、易以螺首、謹其閉塞、使如螺也、周人木德以桃爲梗、言氣相更也、今人歳除插芝蘇稽于門、是葦茭之遺、螺門言氣所交也、銅環獸面一名椒圖、桃梗今之桃符、熙朝樂事曰、正月朔日、插芝麻梗於簷頭、謂之節節高、事言要玄引裴玄新語曰、五月五日、織麥麴懸于門、以示農工成也、麴音涓麥莖也、

年男

〔増山の井〕年男　俳

〔續山の井春〕年男　伊藤如春

年男今朝きて春や立田彦

〔改正月令博物筌正月〕年男　年越の豆をまくより、正月の儀式をつとむる人を云、又其年の十二支にあたりたるもいふなり、俳もらひ著の袴をかしや年男、彈流、

〔改正月令博物筌十二月〕節分〇中略　豆打（中略）豆をうつものは、來る年の支に當る者つとむ、是を年男といふ、